

メディア

6月1日
千葉版の記事概要

原付きバイクで信号無視し、度重なる出頭要請にも応じなかったとして、千葉県警柏署は吉川洋・前千葉県議を道路交通法違反(信号無視)容疑で逮捕した。同署は県議在職中だった今年3月8日、市道交差点で赤信号を無視して進行、署員に呼び止められたが「違反はしていない」と立ち去ったとしている。前県議は同日出頭したが、「なぜ調書を取られなくてはいけない」などと抗議。その後も計8回の出頭要請に応じなかったという。捜査関係者は「6000円の反則金を払えば済むことで、こうした対応をすることは不思議だ」と話している。

経緯

吉川洋・前県議から6月12日付で委員会にあった申し立て内容は▽逮捕後に留置されたが接見禁止ではなかった。記者はなぜ私や弁護士に取材しなかったのか▽6月6日に開いた記者会見での私の訴えを他紙は報道したが、毎日新聞が報じなかったのはなぜか▽今回予処分にしたことを報じる

の報道は公平と考えるかーなど。申し立てとは別に提出された文書では「信号無視事件で、なぜ7人も警察官が捜査令状を持って家宅捜索し、逮捕までするのか」と捜査を批判した。毎日新聞は同27、28日に海外から帰国した吉川前県議を取材。同29日千葉版で千葉地検松戸支部が起訴猶予処分にしたことを報じる

千葉・前県議「信号無視」事件で申し立て

取材・報道 何が足りなかった

原付きバイクで信号無視したとして吉川洋・前千葉県議が道路交通法違反の疑いで県警に逮捕されたことを報じた千葉版(6月1日)の記事をめぐる、前県議本人から「開かれた新聞」委員会に、「信号無視はしていないという訴えを報道しなかった。名誉を傷つけられた」として救済申し立てがありました。毎日新聞の対応について、3人の委員に見解を求めました。



捜査情報のみ バランス欠如



鈴木秀美委員

とともに、「信号無視をしていない。県警の逮捕には理由がない」との訴えを掲載。また、7月7日付で「主張を記事にする時期が遅くなったことに関して誠に申し訳なく思っている。意図的に無視したわけではない」とする社会部千葉支局長名の文書を送付した。

今回の苦情に関連して、毎日の報道には二つの問題があったと思う。

一つ目の問題は、6月1

日の初報で引用された捜査関係者のコメントである。

「反則金(それも6000円)を払えば済むことなのに、なぜそうしないのか不思議だ」というコメントは、前県議が信号を無視したことを前提としている。「信号無視容疑で前県議逮捕」という通常ではちょっと考えられない事件だったこと、信号無視の容疑をかけた

共同加盟の 意味がない



池上彰委員

られたのがポスティングという政治活動中で、時期的にも県議選の約1カ月前だったことなどに照らせば、初報には捜査関係者のコメントだけでなく、前県議の言い分もあわせて掲載しておく必要があったと思う。痴漢の嫌疑をかけられたとき、たとえやっていなくても素直に認めて謝罪したほうが、否認して長期戦になるよりましだといわれることがある。しかし、事件報道の場合には、たとえ容疑者が逮捕されても、「この容疑者が本当にやったのか」という視点でまず事件をみつめるべきだ。

二つ目の問題は、前県議の記者会見を取材せず、共同通信の配信記事も掲載し

申立人は、「なぜ私や私の弁護士に取材をおこなわなかったのでしょうか」と疑問を呈しています。新聞記者として、耳が痛い疑問ではありませんか。警察の発表だけで記事を書くのではなく、こちらの言い分も聞いてほしいという願いは痛切です。

「原付きバイクで信号無視し、度重なる出頭要請に応じなかったから前県議を

なかったことである。他の取材のせいで毎日として記者会見を取材できなかったというが、だとしたら初報とのバランスを取る意味で、共同通信の配信記事だけでなく掲載しておくべきではなかったか。意図的ではなかったとしても、毎日、結果的に起訴猶予の判断が出るまで捜査当局の情報だけを報道したことになる。

千葉支局長も、初報のコメント引用は、前県議が信号を無視したと決めつけていると読者に受け止められる可能性があったと認めている。今後の事件報道にあたっては、たとえ軽微な事件であったとしても、読者に予断を与えないための配慮を忘れないでほしい。

逮捕した」というのは、異様な印象を受けます。何があったのか、千葉支局としては、せめて弁護士に連絡をとって事情を聴く努力はすべきでした。限られた時間の中でも、全力は尽くすべきです。

もう一つ問題なのは、吉川氏の記者会見を毎日新聞の記者が取材しなかったことです。支局の記者の数は限られ、やりくりがつかない事情はわかります。しかし、共同通信は取材をして、毎日新聞に記事を配信してききました。これについて千葉支局長は、「当事者間で大きく意見の分かれる内容について、毎日新聞として取材しないまま報道すること

に抵抗もあり」「通信社電を県版出稿することを見送りました」と報告しています。ここに重大な問題があります。

「毎日新聞として取材しないまま報道することに抵抗」があるのなら、それくらいでも独自に取材をすればいいではないですか。

また、その余裕がないのなら、なぜ毎日新聞は共同通信に加盟したのかを思い出してください。

共同に加盟したのは、発表記事などは共同に任せ、毎日としては独自取材に力を注ぐ方針になったからではありませんか。独自の取材ができないのであれば、こういうときこそ、共同通信の記事を使用すべきではないでしょうか。

真実に迫る 姿勢希薄では



吉永みち子委員

警察発表を記事にする場合でも、記者として基本的にはうのみにするのはなく、不明な点、不自然な部分を感じ取るセンサーが求められる。それがないと垂れ流しになる。今回も、前県議が信号無視でかたくなに出頭拒否して逮捕という最初の記事には、一読者ですら「なんで？」という違和感を覚える。捜査関係者の話を取材するなら、否認

している吉川氏の話も聞くのが公平な姿勢だろう。信号無視の容疑での家宅捜索や本人の立ち会いのない現場検証などの異常な展開にもセンサーが作動していないのはなぜだろう。意図的でないなら、いささか真実に迫ろうとする姿勢が希薄と思わざるをえない。

吉川氏の抗議を受けてからの当委員会への報告も、吉川氏本人への説明も、あまりに表面的で自己弁護色が強くて驚きすら感じた。県警発表時は夕方時間的な余裕がなかったとし、氏の会見時は人手が足りずに放射能問題の方が重要だから欠席というのは、あまりに新聞社の都合優先に過ぎない。

きないか。共同通信の記事を使用しなかったのは、取材しないまま報じること、抵抗を感じたとしながら、一方では取材しないまま警察発表は抵抗なく書くというのも理解に苦しむ。この対応で逆に報道姿勢ばかりか、身勝手さを身勝手と感じない体質まで浮き彫りにされてしまった感がある。日本では容疑者と報じられた段階で、回復不可能なほどのダメージを受けるということを深く胸に刻んで記事にすべきで、今回の経過を言い訳で乗り切るのはなく、もっと深いところで受け止め、今後の報道のあり方につなげてほしいと切に願う。

事件ではありませんが、事件事故取材の原則は共通です。改めて趣旨を徹底します。

また、前県議が6月6日に柏市で開いた会見に毎日新聞は出ませんでした。印西市で開かれた福島第1原発事故による放射線量などに関する会見を優先したためです。ただ、事後に会見内容をフォローすべきでしたし、少なくとも各委員ご指摘のとおり、共同通信の配信記事を使用すべきでした。前県議に対する取材申し込みが遅れたことも含め、容疑者側の取材を重視しなかった点に問題があったと思います。

今後の事件取材・報道の教訓にしていきたいと考えております。

「ガイドライン」尊重したい 丸山雅也・社会部長

委員の皆さんから誠に厳しいご指摘を受けました。大いに反省すべき点のある取材・報道だったと考えております。

初報記事にある捜査関係者のコメントは、鈴木委員がご指摘のとおり、前県議の信号無視を前提としたもので、不要な談話でした。毎日新聞は、裁判員制度の開始に合わせて「捜査当局の情報に偏ることを防ぐ意味から、容疑者・被告側の言い分をできる限り取材し、報道する」ことなども盛り込んだガイドラインを作成しています。今回は裁判員裁判の対象